

Cコース「常陸太田の徳川と佐竹」

コース作成: まちかど案内人の会

約 10.6km

START 常陸太田市観光案内センター

- ① 西山荘
- ② 正宗寺
- ③ 助さんの墓
- ④ 佐竹一族の墓
- ⑤ 那珂辰通の墓

GOAL 常陸太田市観光案内センター

- Aコース
- Bコース
- Cコース
- Dコース
- おすすめ



那珂通辰の墓



佐竹一族の墓



正宗寺



正宗寺の裏にありませう



源氏川と彼岸花



正宗寺の裏にありませう



十王坂



ヨネビシ醤油



西山荘



桃源



立川醤油店



鯉ヶ丘の街並み



義公廟



久昌寺



やまぶき橋



真福寺



二本松藩士の墓

START&GOAL

常陸太田市観光案内センター

常陸太田市消防庁舎

合同庁舎

① 西山荘

「水戸黄門」で知られる、水戸藩二代目藩主・徳川光圀公が藩主の座を退いた後、元禄4(1691)年から元禄13(1700)年に没するまでの晩年を過ごした隠居所。光圀公はここで『大日本史』の編さんの監修に当たった。入口には光圀が紀州から取り寄せ、移植した熊野杉が天を覆っている。建物は茅葺き平屋建て、内部は粗壁のままで、どの部屋にも装飾はなく、書斎も丸窓だけの三畳間と質素な佇まい。なお、現在の建物は、文政2(1819)年に再建されたものである。春の梅、夏の新緑、秋の紅葉、冬の雪景色など、季節ごとに異なった表情が楽しめる、美しい情景は必見。

② 正宗寺 臨済宗円覚寺派 万秀山秀宗寺

月山周枢和尚が暦応4年(1341)に開き、佐竹一族の菩提所でもあり多くの、庇護を受けていた当時は、文化の中心地であった。正宗寺は、佐竹9代貞義が暦応4年に建立し、京都天竜寺の無窓国師を請じて開山した。貞義の長庶子の義徳は、国師の弟子となり月山と名乗り天竜寺に学んだ。後、帰国し勝楽寺境内に正宗庵を興した。一時、寺田4万石(三社合わせて)とも云われ隆盛を極めたが天正争乱時(19代義重の頃)勝楽寺と正法寺は衰え、正宗寺に寄食する程になった。江戸時代には徳川家光により主因100石を受け12ヶ寺の末寺があった。(周辺に寺跡が多く点在している)天保10年に庫裏建設、明治3年(1870)本堂が再建されたが老朽化のため昭和62年11月現本堂を建築し、昭和63年9月30日落慶法要がおこなわれた。

総門

単層の木造瓦葺で室町時代の建築として貴重な建造物で、記録によると参道の両側は、杉並木となり総門をくぐり、今の石段をあがって礎石が横3列に残ってる所に仁王像を納めていた三門があったそうです。

勝楽寺跡 大瑞山勝楽寺

平安時代、鎮守將軍平良将(平将門の父)が律宗に帰依し建立した寺である。当時増井寺といった。康平5年(1062)前9年の役に奥州に下る源頼義、義家が京都明王院の快季・祐弁を招いて調伏を行い真言宗となり大瑞山勝楽寺となったと伝えられる「開基帳」。鎌倉時代、二階堂氏の庇護を受け金砂神社の別当識の奇進も受けた。現在廃寺。

正法院跡 実相山正法院

佐竹4代秀義が京都建仁寺の明全禅師を開山1世として請じ貞応2年(1223)創建。8代行義の代に南明山と改められた。正法院跡には近年まで開山堂が建てられていたが昭和初期に焼失した。

正宗寺の柏楨

正宗寺の参道右側に二本の柏楨が立ち並んでいる。

月山周枢鶴和尚 1305～1399 京都で没 享年95歳

25歳から37歳の7年間、夢窓国師の弟子となり天竜寺に学んだ。正宗寺を開き、夢窓国師を招き開山とし、自らは2世と称した。瓜連天祐寺(開山は、仏国禅師)の2世ともなる。県北地域臨済宗の興隆や文化の向上に貢献した。

③ 介(助)さんの墓 本名：佐々宗淳

水戸光圀公に仕えた「佐々宗淳」の墓です。宗淳は「大日本史」の編纂に関わり、史料調査のため全国を巡り歩いたほか、楠木正成の墓碑建立、那須国造碑付近の古墳調査を行うなど、光圀公の手足となって重要な役目を果たした学者です。宗淳の通称は介三郎、号は十竹(斎)と言います。寛永17年(1640)に瀬戸内の小豆島で生まれ、延宝2年(1674)35歳の時に水戸徳川家に招かれました。元禄元年(1688)には彰考館総裁に任ぜられています。宗淳は男子がなかったため、甥の藤蔵宗立を養子にしています。その後、光圀公が西山荘に隠居してから5年を経て、彰考館総裁を辞し、西山荘入口に居を構え光圀公に近侍しました。しかしながら、元禄11年(1698)5月に病を患い、6月3日59歳の生涯を閉じました。西山荘での晩年はわずか2年間という短いものでした。墓所には介さんの墓と佐々累代の墓がある。

宗淳の先祖

宗淳の先祖は尾張の住人前野氏。曾祖父の前野加賀守は織田信長の家臣佐々成正の姉を娶り、宗継・直勝の男子を得た。佐々成正は子がなかったため、姉の子宗継を養子とし、このとき宗淳の祖父でもある直勝も佐々姓を名のった。

介さんは僧だった

宗淳は15歳から34歳(延宝元年(1673)還俗)まで京都の妙心寺(臨済宗)で仏門に牌っていた。正宗寺に墓があるのは臨済宗の縁と考えられる。墓誌は延宝元年(1704)に養子の藤蔵宗立が建立、安積澹泊が碑文を撰している。

④ 佐竹一族の墓

正宗寺の裏山にあり、石塔が整然とたたずんでいます。「佐竹一族の墓」と言い伝えられています。この石塔は「宝篋印塔」と呼ばれる形式で、かつて寺域内に点在していたが戦後一ヶ所に集められたといえます。墓の数は十数基ありますが、銘文が一切なく誰の墓なのか特定できなくなっています。此処に埋葬されたことが確認できるのは佐竹4代秀義公が嘉禄元年(1225)鎌倉名越の館で死去しており、その亡骸が増井の勝楽寺辺りに葬られたとの記述が見えます。しかし、佐竹氏が秋田へ国替となった時に墓碑を運んだとの説もあり、佐竹一族の墓だという伝承を裏付ける術はありません。

佐竹一族と菩提寺の変遷

佐竹秀義公は嘉禄元年(1225)鎌倉名越の館において死去、亡骸が勝楽寺辺りに葬られた記録がある。勝楽寺が佐竹一族の菩提寺となり、8代行義公が寺内に正法寺(正法院)を建立、10代義篤公により正宗庵が寺に改められ正宗寺となった。正宗寺は鎌倉時代を通じて佐竹氏の菩提寺であったが、10代義篤公の時、歴代を葬る菩提寺に大きな変化が顕れる。義篤公は9代貞義公の菩提を弔うため、復庵宗己を中興開山の祖とし旧常北町の清音寺を真言宗から臨済宗に改宗し菩提寺とした。これを機とし、佐竹当主は個人の為の菩提寺建立を続けた。境内には秀義公・義篤公・復庵宗己の墓がある。11代義宣：守源寺建立(鎌倉) 12代義盛：多福寺建立(鎌倉) 13代義人：耕山寺 途中省略 18代義昭：浄光寺

宝篋印塔

「宝篋院陀羅尼」という経文を納めた塔鎌倉時代の頃から供養塔、墓碑として同様な形状の石塔が造られている。(構造・特徴)一般的に下段から「基壇」「基礎」「塔身」「笠」「相輪」の5層構造となっている。相輪以外が全て方形、塔身の四方には月輪で囲まれた四仏あるいは梵字が刻まれている。

⑤ 那珂通辰の墓

那珂通辰

南北朝時代の動乱期において、通辰は南朝方につき、北朝方の佐竹氏とは度々争っていた。建武2年(1335)みかの原の戦いでは佐竹貞義を破ったが、延元元年(1336)佐竹貞義の籠城する西金砂城の攻撃に惨敗し、主従34名は源氏川沿いに久慈郡増井郷の佐竹氏の菩提寺である楽勝寺境内に逃れたが、佐竹氏に包囲され、同寺裏山の一本松の峰で自害した。那珂氏祖通資から9代200有余年続いた通辰の子通泰は生き残り足利尊氏に仕える。

注：・主従については43名説もある。・討ち死にした説もある。・資料が乏しく真偽の程は定かでないともいわれている。

那珂氏について

那珂氏は藤原氏の流れをくみ、藤原秀郷の五世公通の二男通直が那珂川辺郷(旧御前山村野口周辺)に居を構え、その子通資(那珂氏の祖)が那珂城(旧緒川村)に移り住んだ。そして那珂氏9代が下総守那珂彦五郎通辰であるといわれている。居城は那珂西城(旧常北町)であったという説もある。

通辰の墓

正宗寺の背後にあり、元は五輪塔であった。明治になり、馬りょう風の墓に改められた。現在の墓は建武中興600年を記念して、元の五輪塔に復元されたものとされている。同所に散在している小塚は一族の墓であるともいわれている。